



第9期 中間事業報告書

平成16年4月1日～平成16年9月30日

GignoSystem
Japan

事業の多角化と高付加価値化を推進し 新しい成長ステージへの第一歩を踏み出しています。

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第9期中間事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶させていただきます。

■ 次世代モバイル端末に向けて、 さまざまなサービスを強化中です。

当社は現在、新たな成長ステージに向けた事業の多角化と高付加価値化に取り組んでおります。具体的には、携帯電話端末の第三世代化への移行による高機能化にともない、映像や音声を駆使した高機能・高品質なコンテンツの配信やサービスを提供するとともに、携帯電話端末に決済機能が追加された「おサイフケータイ」の発売等による今後のモバイルコマース市場の拡大を見越し、コマース(ショッピング)事業の拡充を図っております。また、国内で培った技術・ノウハウをベースとした海外向けのモバイルサービスやソリューションを積極的に展開しております。

当中間期におきましては主力事業である国内携帯電話向け有料情報サービスのユーザー数が引き続き減少傾向にあったことなどから、連結売上高は21億65百万円、経常利益は3億38百万円、当中間期純利益は1億95百万円となりました。

しかし、国内の携帯電話向け有料情報サービス市場が第三世代携帯電話へとシフトするなか、当社が運営するサービスを利用する第三世代携帯電話ユーザー数も着実に伸びており(P5)、早くから高機能・高品質サービスの拡充に取り組んでまいりました当社への評価も

ますます高まっております。

海外におきましても、新たにイタリア、ギリシャ、カナダにおいてモバイルサービスをスタートさせ、ユーザー数も順調に増加しております(P6)。さらに、コマース事業においても、新しいショップを次々とスタートさせるなど、今後の収益拡大を見込んでおります。

一 (株)エフエム東京との資本業務提携による新しいサービスの創出に注力していきます。

2004年10月の第三者割当増資及び11月の(株)エフエム東京による公開買付により、(株)エフエム東京は当社の54.06%の株式を保有する筆頭株主となりました。

国内携帯電話市場においてはFMラジオ付き携帯電話端末が普及しつつあり、今後カメラ付き携帯電話と同等の水準まで普及が見込まれます。こうした市場動向にいち早く対応するため、携帯電話向けビジネスに関する技術・ノウハウをもつ当社と、日本初のFM局であり、全国38局を結ぶJFN(Japan FM Network)のキー局である(株)エフエム東京とが資本業務提携することで、通信と放送の融合による革新的なサービスを創出し、新しい事業の柱として育成していきたいと考えております。

一 情報セキュリティ強化へ積極的に取り組んでおります。

また、当中間期においては携帯電話向け有料情報通信サービス事業者では初めてとなる「情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)

適合性評価制度」¹および情報セキュリティマネジメント規格「BS7799:PART2:2002」²の認証を同時取得いたしました。

2005年4月1日から「個人情報保護法」が全面施行され、情報セキュリティに対する意識がより高まる



IJ 00956
ISMS Certification Criteria(Ver.2.0)

IJ 84139
BS 7799:PART2:200

なか、当社は早くから社内の情報セキュリティ管理に取り組んでおり、今回の認証取得もそうした取組みの一つとして位置づけております。今後も社内の「情報セキュリティ委員会」を中心に、情報セキュリティに関するルール作り、より厳密な管理体制の構築、そして日々の社員教育とスキルアップに取り組んでまいります。

今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 飯田 桂子

1) ISMS適合性評価制度

組織が保有する情報資産の保護を目的に、(財)日本情報処理開発協会が2002年4月から運用を開始した情報マネジメントシステムに関する評価制度です。審査登録機関によって「ISMS認証基準」に適合していることを認められた組織だけが、ISMS認証を取得することができます。

2) BS7799

情報セキュリティマネジメントシステムに関する英国規格です。企業が事業活動の過程で扱う情報資産に対して適切な保護施策を講じ、管理策を維持・改善する体制を構築することを目的に英国規格協会(BSI)により制定されました。この規格には「情報セキュリティ管理実施基準」であるBS7799-1と、「情報セキュリティ管理システム仕様」であるBS7799-2があり、前者は日本においてISMS適合性評価制度として発行されています。

GIGNOSYSTEME

時代の変化とともに、成長し続けるジグノシステム

インターネットの可能性を切り拓く価値あるサービスを創出するために
1996年12月、ベンチャー企業として誕生したジグノシステムは、
時代の変化とともに、そしてインターネットの進化とともに、
人々のニーズや企業の課題に応える新しいサービスを生み出してきました。
そして今、私たちは第2の成長ステージへ大きな一歩を踏み出しました。

当社が培ってきた強み・ノウハウ

●マーケティング/サイトの企画・提案力

インターネットの黎明期から多彩なコンテンツ・サービスを自社で開発・運営し、数々の成功をおさめてきたビジネス体験をもとに、潜在的な市場ニーズを科学的に分析し、高品質なサービスへと結びつけるマーケティングノウハウ、企画・提案力を蓄積しています。

●画像に関する高度な技術ノウハウ

携帯電話のインターネットアクセスサービスが始まった当初から「写真」や「画像」などの画像活用に強みをもつモバイルコンテンツ配信を展開。その経験をベースに映像や音声へいち早く対応し、高性能・高品質なコンテンツを作り出す豊富な技術ノウハウを獲得しています。



●システム開発・運営・管理までの一貫体制

C/S(クライアントサーバー)などのネットワークはもちろん、ソフトウェアやハードウェアなどに関するさまざまな技術を蓄積するとともに、自社内でシステムを開発・運営・管理できる一貫体制を確立。ビジネス目的や規模に合わせた最適なシステム環境をスピーディに作り出しています。

●国内外の優良パートナーとのネットワーク

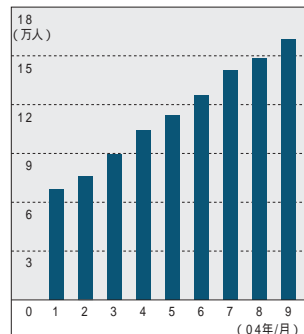
携帯電話向け有料情報サービスの開始当初から携帯電話キャリアやメーカーとの緊密なパートナーシップを構築。高度な技術力を駆使して携帯電話の高機能化に貢献してきました。その実績が評価され、海外においても数多くのパートナー企業とともに、グローバルな配信体制を構築しています。

TOPICS 1 | コンテンツ配信

**FOMAユーザー数が166%増、
2004年9月時点で15万8,000人に**

第三代携帯電話端末へとシフトするなか、当社は映像や音声を駆使した高機能・高品質なコンテンツや高付加価値サービスの企画・開発、販促活動に取り組んできました。その結果、当社が運営するサイトを利用する第三代携帯電話ユーザーは順調に増加し、なかでもFOMAユーザーの数は9月末時点で、前期末の9万5,000人から15万8,000人へと166%増加しました。当社は引き続き高機能・高品質・高付加価値のコンテンツ・サービスの提供を通して、第三代携帯電話向けサービスにおいてリーディングポジションを獲得していきたいと考えています。

当社サイト内の
FOMAユーザー数の増加



第三代携帯電話
端末対応サイトの一例



ムービーキング
グラビアアイドルやプロレスラー、POPなクラブなど、さまざまな着せ替えが楽しめる「900シリーズ専用サイト」です。



待ち受け ムービー
最先端の動画技術を活用したスタイルリッシュで、ユニークなムービーが人気を集めています。

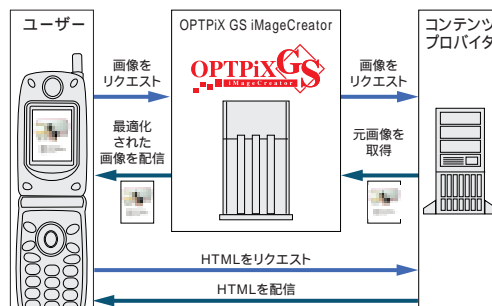
当中間期の TOPICS

TOPICS 2 | システムソリューション

**携帯電話端末に合わせて画像を自動変換する
「オールインワンASPサービス」を開始**

(株)ウェブテクノロジーとの提携により、携帯コンテンツプロバイダ向けのASP(アプリケーション・サービス・プロバイダ)「OPTiX GS iImageCreator」を開発。当中間期の準備期間を経て、2004年11月1日からサービスを開始しました。このASPサービスは、携帯サイトで使用する画像を各携帯電話端末に合わせた最適なデータへ自動変換し、配信するというもので、機種ごとに異なる画面サイズや対応ファイル形式に合わせた画像調整が不要となります。今後も急速な成長が期待されるモバイルコマース市場において、コマースサイト運営者を対象に大幅な需要が見込まれています。

「OPTiX GS iImageCreator」



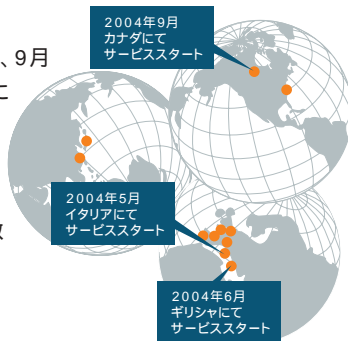
GIGNOSYS TE

時代の変化とともに、成長し続けるジグシステム

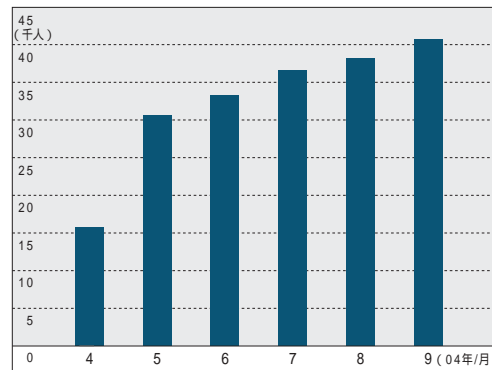
TOPICS 3 | 海外向けコンテンツ

対応エリアは11カ国9言語へ拡大

2004年5月のイタリア、6月のギリシャ、9月からはカナダでサービスを開始。これにより海外の携帯電話向け有料情報サービスの対応領域は日本を含め11カ国9言語となりました。運営サイト数は第1四半期から12サイト増え、ユーザー数も順調に増加しています。



海外におけるユーザー数推移



当中間期の TOPICS

TOPICS 4 | コマース事業(ショップ事業)

2004年7月より自社運営によるモバイルコマースサイトを順次立ち上げ

2004年7月より自社運営によるモバイルコマースサイトを積極的に立ち上げています。Eコマース市場につきましては、課金決済システムの携帯電話への搭載など、モバイルコマースの利用がますます増加していくと予想されることから、今後も積極的に本事業の拡大を図っていきます。また、(株)エフエム東京との資本業務提携により、FM放送というメディアと通信の連動によるコマース事業の拡大にも取り組んでいきます。

当社が運営するモバイルコマースサイト(2004年9月30日現在)

			「遊べる本屋」をコンセプトに、書籍、雑貨類を複合的に販売するヴィレッジヴァンガードのモバイル店舗です。
			ワンランク上のペットライフをサポートする、素材にこだわったペットフード、サプリメント、グッズ、おもちゃなどを販売しています。
			ギフトとしてのアート、スタイルとしてのアート、生活の中のアートをテーマにアクセサリーやインテリア向けなどの商品を取り揃えています。
			「セレブへのあこがれ」をキーワードに、輸入ブランド小物やダイエット商品、コスメ、香水など多彩な商品をラインナップしています。

「放送と通信の融合」をキーワードに 新しいビジネスを展開

1999年2月の「iモード」サービス開始から5年が経ち、携帯電話端末の進化にともなって、そのサービス内容も充実するなど、通信を取り巻く環境はますます充実しつつあります。なかでも昨年発売されたFM付携帯電話端末は、今後、国内3キャリアからの発売が見込まれるなど、今後の普及が期待されています。

こうしたなか、当社はFMという放送メディアがもつ可能性に着目し、放送と通信を融合した新しいサービスを創出するために、日本初のFM局であり、全国38局を結ぶJFN(Japan FM Network)のキー局である(株)エフエム東京と資本業務提携を結びました。

今後は両社のリソース 当社のモバイルコンテンツに関する技術力・運営力と、(株)エフエム東京がもつ一斉同報・告知力を活用したクロスメディア展開により、同局のFM番組と連動したサービスの

立ち上げ、音楽CDやチケット、その他さまざまな商品を扱う物販サービスなどを展開していきます。

デジタル化によって拓かれる FMの新しい可能性

2003年10月10日、デジタルラジオの実用化試験放送が開始され、FMというメディアが大きく変わろうとしています。

通信回線を必要とせず、どこにいても最新の情報を得られるFMは、これまでも移動中や災害時に大きな威力を発揮してきました。そのFMがデジタル化されることで、FMは音声を聴くだけでなく、豊富な画像、データを同時受信することが可能な“次世代型メディア”へと発展していきます。さらに、デジタルラジオ放送がモバイル通信と融合することで、これまでにないユニークで、利便性の高いサービスの提供が可能となります。

For The Next Stage

株式会社エフエム東京との資本提携により 新たなビジネスを展開

株式会社エフエム東京 会社概要

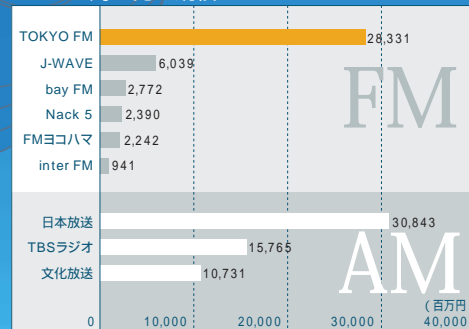
(2004年3月末現在)

社名	株式会社エフエム東京
本社所在地	〒102-8080 東京都千代田区麹町1-7 http://www.tfm.co.jp/
創立	1970年3月17日
開局	1970年4月26日
資本金	13億3,500万円
従業員数	358名(連結 2004年3月末現在) 146名(単体 2004年3月末現在)
コールサイン	JOAU-FM
	FM文字多重放送JOAU-FCM
周波数	80.0MHz

JFNのキー局として
全国38局をネットワーク



FM・AM局の売上規模



(出典:民放連資料を基にエフエム東京作成)
エフエム東京の売上高は単体の数値

中間貸借対照表

単位(千円)

項目	第9中間期 (平成16年9月30日現在)
資産の部	
流動資産	4,095,703
固定資産	1,367,975
有形固定資産	131,421
無形固定資産	81,503
投資その他の資産	1,155,050
資産合計	5,463,678

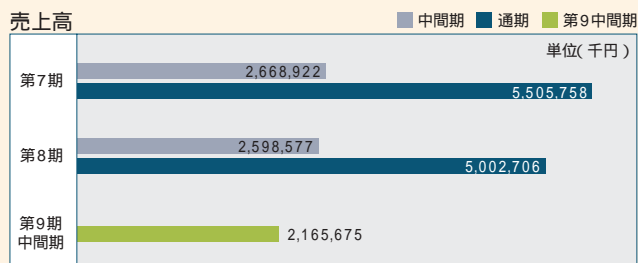
単位(千円)

項目	第9中間期 (平成16年9月30日現在)
負債の部	
流動負債	980,327
固定負債	300,676
負債合計	1,281,004
少数株主持分	
少数株主持分	-
資本の部	
資本金	1,126,896
資本剰余金	1,054,054
利益剰余金	1,538,912
その他有価証券評価差額金	463,314
為替換算調整勘定	502
資本合計	4,182,674
負債、少数株主持分及び資本合計	5,463,678

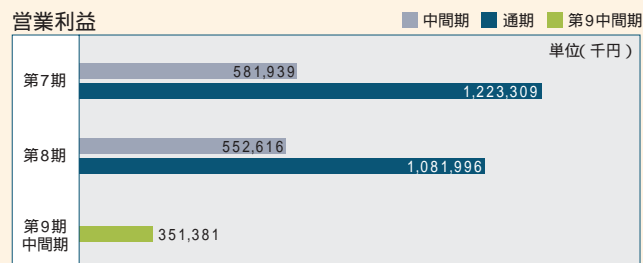
当社グループは、前連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため前中間連結会計期間については、記載していません。

ハイライト

売上高



営業利益



当社グループは、前連結会計年度から連結財務諸表を作成しているため、第7期、第8期中間期は単体の業績となっております。

中間損益計算書

単位(千円)

項目	第9中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)
売上高	2,165,675
売上原価	1,257,109
売上総利益	908,566
販売費及び一般管理費	557,185
営業利益	351,381
営業外収益	3,964
営業外費用	17,202
経常利益	338,142
特別利益	32,126
特別損失	24,480
税金等調整前中間(当期)利益	345,788
法人税、住民税及び事業税	143,850
法人税等調整額	6,177
中間(当期)純利益	195,760

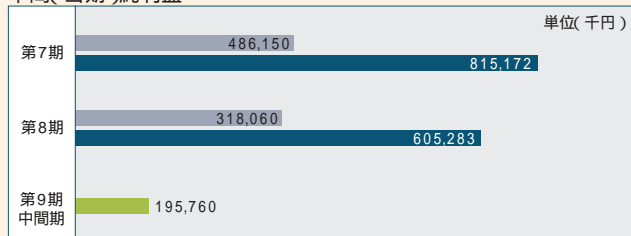
中間キャッシュ・フロー計算書

単位(千円)

項目	第9中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	241,460
投資活動によるキャッシュ・フロー	32,636
財務活動によるキャッシュ・フロー	100,709
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,572
現金及び現金同等物の増減額	110,687
現金及び現金同等物の期首残高	1,885,679
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,996,366

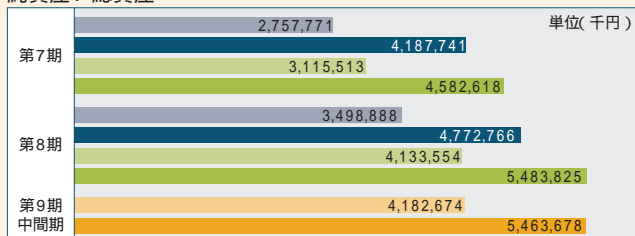
中間(当期)純利益

■ 中間期 ■ 通期 ■ 第9中間期



純資産 / 総資産

■ 中間期 純資産 ■ 通期 純資産 ■ 第9中間期 純資産
■ 中間期 総資産 ■ 通期 総資産 ■ 第9中間期 総資産



中間貸借対照表

単位(千円)

項目	期別	第8期末	第9中間期
		(平成16年3月31日現在)	(平成16年9月30日現在)
資産の部			
流動資産		3,955,286	3,924,208
固定資産		1,562,922	1,546,522
有形固定資産		143,174	128,603
無形固定資産		55,237	81,385
投資その他の資産		1,364,509	1,336,533
資産合計		5,518,208	5,470,730
負債の部			
流動負債		1,030,221	937,425
固定負債		318,953	300,676
負債合計		1,349,174	1,238,102
資本の部			
資本金		1,126,896	1,126,896
資本剰余金		1,054,054	1,054,054
資本準備金		754,054	754,054
その他資本剰余金		300,000	300,000
利益剰余金		1,498,093	1,588,363
その他有価証券評価差額金		489,989	463,314
資本合計		4,169,033	4,232,628
負債及び資本合計		5,518,208	5,470,730

中間損益計算書

単位(千円)

項目	期別	第8中間期	第9中間期
		(平成15年4月1日から平成15年9月30日まで)	(平成16年4月1日から平成16年9月30日まで)
売上高		2,598,577	2,151,140
売上原価		1,549,032	1,251,232
売上総利益		1,049,545	889,907
販売費及び一般管理費		496,928	516,765
営業利益		552,616	383,142
営業外収益		136	3,524
営業外費用		308	676
経常利益		552,445	385,990
特別利益		989	-
特別損失		2,017	24,480
税引前中間(当期)純利益		551,416	361,509
法人税、住民税及び事業税		222,853	143,850
法人税等調整額		10,502	6,177
中間(当期)純利益		318,060	211,481
前期繰越利益		859,079	1,376,882
中間(当期)未処分利益		1,177,140	1,588,363

株式分布状況(2004年9月30日現在)

株式の状況

会社が発行する株式の総数	263,200株
発行済株式の総数	67,474株
株主数	3,469名

大株主

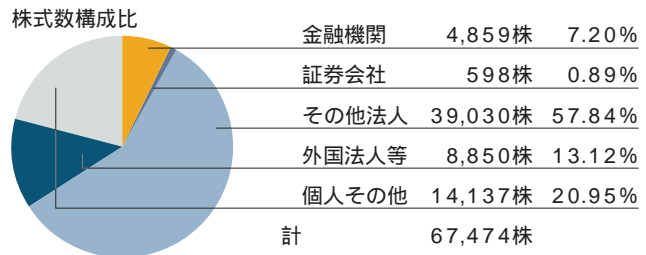
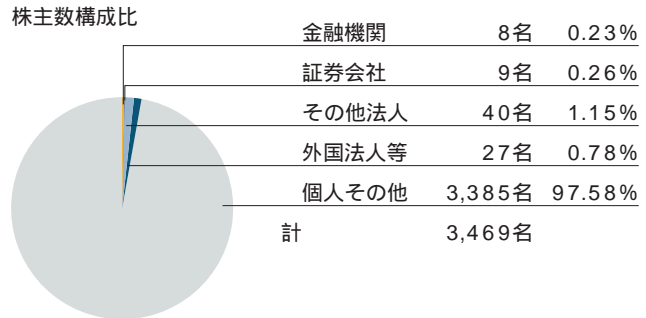
株主名	持株数	持株比率
株式会社ブラザクリエイト	34,550株	51.20%
エスアイエスセガインターセトルエーjee	2,929株	4.34%
ソフトバンク株式会社	2,000株	2.96%
株式会社リコー	1,800株	2.66%
ザチースマンハツタンバンク	1,765株	2.61%
エヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	1,099株	1.62%
杉本利彦	1,099株	1.62%
資産管理サービス	1,024株	1.51%
信託銀行株式会社証券投資信託口	1,024株	1.51%
日本トラスティ・サービス	1,006株	1.49%
信託銀行株式会社信託口	1,006株	1.49%
日興シティ信託銀行株式会社投信口	987株	1.46%
日本マスタートラスト	975株	1.44%
信託銀行株式会社信託口	975株	1.44%

(注)持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てております。

会社概要(2004年9月30日現在)

社名	ジグノシステムジャパン株式会社
本社	〒102-0085 東京都千代田区六番町3番地六番町SKビル6階 TEL.03-3556-7737
設立	平成8年12月
資本金	1,126,896,266円
主要業務	インフォメーションプロバイダー事業、 システムソリューション事業、コマース事業
従業員数	連結 99名 単体 89名

株主分布状況



取締役及び監査役

代表取締役社長	飯田 桂子
取締役	小原 淳子
取締役	吉浜 直人
取締役	大島 康広
常勤監査役	近藤 恵
監査役	岡田 亘弘
監査役	木田 正幸
監査役	小澤 宏之

株主メモ

決算期	3月31日
利益配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
名義書換代理人	UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱所	UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区 東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
同取次所	UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	大阪証券取引所
公告掲載新聞	日本経済新聞

当社は、決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ(<http://www.gignosystem.com/kessan>)に掲載しております。

お知らせ

ホームページをリニューアルしました。

2004年11月に当社ホームページをリニューアルしました。サイトのイメージを新しいロゴを基調としたデザインに一新し、各コーナーの情報を充実させたほか、ナビゲーションなどもより分かりやすく改善しています。また、企業情報、IR情報、採用情報それぞれにトップメッセージを掲載しています。



<http://www.gignosystem.com>

GignoSystem
Japan

ジグノシステムジャパン株式会社



環境に優しい植物性大豆インキを使用しております。



古紙配合率100%再生紙を使用しております。